P620.

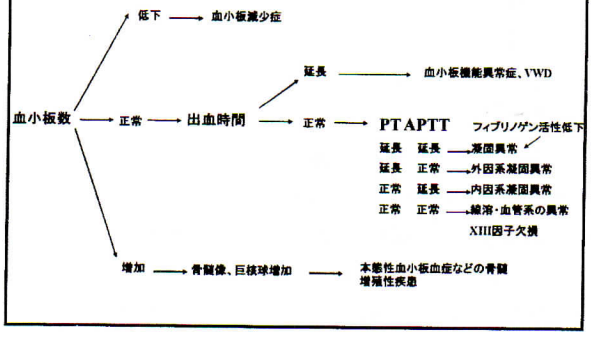
出血傾向の原因と症状

症候	血液凝固異常	血小板異常・血管異常
点状出血(petechia)（径2 mm以下）	まれ	特徴的
斑状出血(ecchymosis)	多い（大きいが少数）	特徴的（小さく多発）
小切創からの持続的出血	少ない	多い
深部血腫（筋肉など）	特徴的	まれ
関節内出血	特徴的	まれ
後出血（こうしゅっけつ）	多い	まれ
男女比	遺伝性の80-90%は男性	女性にやや多い

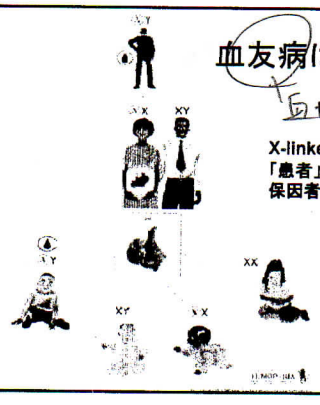
622 血小板に対する抗体が出る。

621 血がんの発症 3%に多い。

図1 出血傾向のスクリーニング検査



血友病は伴性劣性遺伝



血が出やすい。

X-linkedなので，出血症状を呈する「患者」はほとんど男性であるが，保因者の女性は同等に存在する．

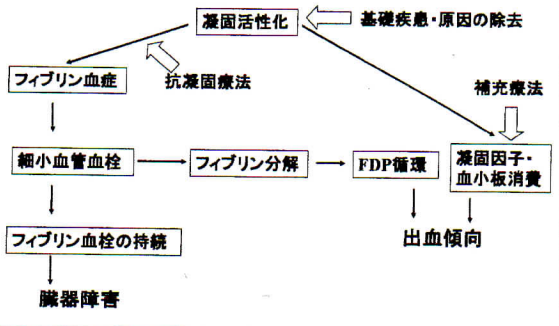
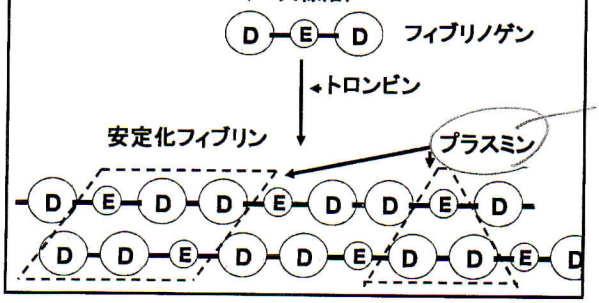
播種性血管内凝固症候群（disseminated intravascular coagulation syndrome; DIC）

種々の原因により凝固系が活性化され、全身の主として細小血管内にフィブリン血栓を多発し、それに基づく虚血性臓器障害をきたす症候群。

血栓の形成に凝固因子や血小板が消費されてそれらが低下し、二次線溶亢進も加わり、しばしば出血傾向がみられる。感染症、悪性腫瘍、産科的合併症など基礎疾患が必ず存在する。

じょうちゅう

DIC発症機序と治療のターゲット



フィブリン生成とプラスミンによる分解：Dダイマー含有分解産物（斜線で囲んだ部分）の形成（二次線溶）